

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年12月1日発行(毎月一回発行) 第732号

ISSN 0286-7001

本の ひろば 12 DECEMBER 2018

出会い・本人

山谷からの眼差し 菊地 譲

本・批評と紹介

堀川敏寛 著
聖書翻訳者ブーバー 田島 卓

朝岡 勝、大嶋重徳 著
教えてパスターズ!! 増田将平

左近 豊 著
エレミヤ書を読もう 朝岡 勝

八木重吉 詩／おちあいまちこ 写真
うつくしいもの 沢 知恵

黒田 裕 著
今さら聞けない!? キリスト教
吉田雅人

大塚野百合 著
子どもの賛美歌ものがたり 塚本潤一

宮田光雄 著
ルターはヒトラーの先駆者だったか
佐藤司郎
イェルク・ツィンク 著／眞壁伍郎 訳
わたしはよろこんで歳をとりたい
大澤秀夫

工藤信夫 著
暴力と人間 坪井節子

O.パーマー・ロバートソン 著／清水武夫監修、高尾直知 訳
契約があらわすキリスト 水草修治

牧野信成 著
巡礼歌 大石周平

本のひろばバックナンバー表

既刊案内

書店案内



世界140カ国以上を取材した気鋭の写真家による珠玉のフォト・エッセイ

和解への祈り

桃井和馬 写真・文



和解への道のりはディベート(討論)ではなくダイアログ(対話)から始まるのではないか。世界各地の写真と深い洞察が、私たちに和解の実践を促す。『信徒の友』連載から22のテーマを精選し、待望の単行本化。贈り物にも。

オールカラー

◆A5判横 上製・96頁・2,160円

2018年11月1日刊行

好評発売中 『すべての生命(いのち)にであえてよかった』 桃井和馬 写真・文 1,944円

説教準備に必携! 待降と降誕の説教集

日本の説教者たちの言葉 輝く明けの明星 待降と降誕の説教

平野克己 編



2018年11月22日刊行予定

◆四六判並製・260頁・2700円
内村鑑三や羽仁もと子、賀川豊彦、井上洋治など、アドヴェント、クリスマスの喜びを語り継いできた17人の説教を収録。各編の解説付き。

子どもと関わるすべての方の必読書

子どもとつむぐ ものがたり

プレイセラピーの現場から

小嶋リベカ



2018年11月20日刊行

◆四六判並製・152頁・1620円
「遊び」を通して苦境にある子どもを支援する「プレイセラピスト」。その専門家が、どう子どもにも寄り添い、支えるかを体験に基づいて綴る。



出合い・本・人

山谷からの眼差し——『続 この器では受け切れなくて』を上梓して 菊地 譲

『わたしを離さないで』（カズオ・イシグロ、早川書房）は、若いクローンが人間に臓器を提供して死んで行く姿を「使命を終える」と、きれいなことばで描いている。現代の労働者はクローンのようなだ。労働者は臓器は提供しないが、肉体を提供しているからだ。

山谷では日雇い労働者は肉体労働を提供し産業の下を支え、ある者は労災死、ある者はアルコールで早死にし、ある者は野宿住みに、ある者は生活保護者に、そして若い、病院等で一人寂しく使命を終えている人が多い。クローンの彼ら、彼女らは何の抵抗もなく、自分の運命を受け入れて提供者として羊のように従順である、それは山谷の状況でもある。

『工場』（小山田浩子、新潮文庫）の主人公「私」が工場内の橋を渡るのに一時間もかかる大橋を持つ大工場に、契約社員として雇われ、毎日シユレツダーで紙を刻んでいる。善良な気弱な市民が虐げられ非正規社員にさせられていることに強く不平を持っているが、ある日作業中に突然「う」になってしまう。私はそこから鵜飼いの「う」を連想してしまう。この本では工場の非正規労働者の怒りをそのような方法で表しているのだからと憶測している。

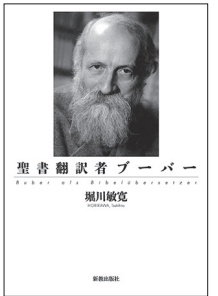
『まなざしの地獄』（見田宗介、河出書房新社）では、人の現在と未来を呪縛するのは、その人の過去を本人の現在としてまた本人の未来として、執拗にその本人にさしむける他者たちのまなざしであり、そういつたまなざしが彼の運命を成形していくのであると、連続ピストル殺人事件のN・Nの生い立ちを表現している。著者は、「怒りなどの否定性の感情は存在を乗り越え変革への前提であるが、それらの感情があまりにも直接的に我々をおそう時に、怒りは我々を単なる状況の否定者にしてしまう」と連続射殺事件を表現している。

クローンめく肉体の搾取、鵜飼のように稼ぎを奪われる労働者、怒りの矛先を誤った悲劇等やりきれなさを抱える資本主義社会で、その矛盾を強く感じる山谷から「剣を打ち直して鋤とする」（イザヤ書二章四節）社会の実現に向けて、発信と行動が少しでも出来たら幸いと思っている。

（きくち・ゆずる）日本基督教団山谷兄弟の家伝道所、牧師

独創的思想家の聖書翻訳論への手引き
堀川敏寛著

聖書翻訳者ブーバー



聖書翻訳者ブーバー
堀川敏寛

田島卓

堀川敏寛氏はブーバーを専門とする研究者であり、ドイツ語や英語での発表も数多い。この書は氏のこれまでの研究をまとめた労作である。

本論の構成は大きく二部に分かれ、第1編では序論に続きブーバー思想を哲学、宗教、倫理などの分野のなかで位置付けるものであり、本書の中核となる諸論考は第2編から始まる。第2編第1章から第4章までは、ブーバー、ローゼンツヴァイクという二人の卓越したドイツ・ユダヤ思想家によってヘブライズムの元来の息吹が吹き込まれた画期的なドイツ語訳である、ブーバー／ローゼンツヴァイク訳聖書に対するこれまでの評価、聖書言語に対するブーバーの独特の理解、主に語根として現れるライトヴォルトと音韻構造に注目する聖書翻訳方法論、そして聖書字のいわゆる主流派に対してのブーバー訳の立場を紹介している。こうしてブーバーの聖書翻訳論が概略的に準備されたのち、第5章から第9章までは、ブーバーの具体的な聖書解釈が紹介される。

本書の各所には、ヘブライ語聖書全般に関するブーバー独自の

の洞察が散りばめられており、それらは非常に興味深い。例えば、ブーバーが採用する方法論はライトヴォルト様式分析と傾向史分析の両者だが、前者は共時的的方法、後者は通時的的方法であり、この時代に両者への配慮が及んでいるのは驚くべきことだろう。「専門家を凌ぐ素人」といふべきブーバーの天賦の一例だと思われる。

ブーバーの聖書解釈・翻訳論を簡略的に見てとるために、本書は良い手引書となっている。ただ、それでもブーバー思想の奔放さのゆえか、まとめることの困難が窺われるところがある。また、現代の文脈の中で注目されるものが減ってきたブーバーを擁護するためか、氏は積極的な異論を差し控えているようにも見えるが、この姿勢が物足りなさの要因になっている。もっと堀川氏独自の主張を展開してほしかったというのが率直な感想だが、これは今後のお仕事に期待したい。

本書の持つ意義を展開するための素描として、聖書翻訳という、本書のタイトルに掲げられた点に関し、いくつかの問題を指摘しておきたい。第一に、ライトヴォルト様式と並んでブー

バーがこだわる点は、聖書の口頭性、身体性だが、この点は従来の聖書学で等閑に付されがちであった。この点にブーバーが拘泥したことは正しい。しかし、さらに問いを進め、なぜ音声が必要なかを問うてみると、可能な答えの一つは、そのテキストが読まれ、聞かれる共同体の存在である。ところが、シヨレムが指摘していたとおり、ブーバー／ローゼンツヴァイクが想定していた共同体の成員は文字通りすでに死に絶えていた(二二―二二頁)。そしてよく知られているように、ブーバーは伝統的な礼拝を形骸的として避けていた。果たしてこの矛盾を看過してよいのだろうか。

第二は傾向史的方法に関するものだ。傾向史という方法によって、ブーバーはいわば古代イスラエルの信仰の歴史を聖書テキストのなかに読み取ろうとする。ラビたちはそれまでにすでに成立したテキストや口伝を再解釈し、それを加筆として残しながら、テキストに隠されていたものを発見するが、こう

した営みとしての歴史の展開のなかに生成する一つの神の声を、ブーバーは見出そうとする。だが、こうして取り出された統一性が真止であることはどう担保されるのだろうか。神であれ民族であれ、陶酔的な理念が容易に捏造されうることを我々は知っているはずだが、そのようなものでないかどうして言い切れるのだろうか。とりわけ、ブーバーの場合、神は汝として出会われる。ところが、「汝」について誰かと共有されることは原理上不可能である。なぜなら、誰かと共有されたそのものは第三人称的な「それ」になるからだ。つまり、神の使信の統一性は検証不可能であるにもかかわらず、そのような統一性をナイーヴに強弁することは許されるのだろうか。

これらの問題を考えさせる機縁として、本書の果たしている寄与は少なくないであろう。

(たじま・たかし) 国際基督教大学教育研究所・キリスト教と文化研究所助手
(A5判・三二八頁・本体四一〇〇円+税・新教出版社)

日本語で書き下ろす聖書注解
シリーズ好評刊行中!

VTJ 旧約聖書注解
出エジプト記
19-40章
鈴木佳秀

シリーズ刊行開始記念
特価 4104円
(2019年3月31日まで)

臨在の印として律法を与える神ヤハウェ。祭儀や掟は神と我々が親密な関係へ入ることへの誘いであることを説き明かす。
A5判上製・334頁・通常価格4752円

マンガ絵本 聖書ものがたり

ノアの箱舟

金斗鉸／具本曜／金徳造 作
金斗鉸氏による待望の最新作! マンガ感覚で楽しめるノアのおはなし。

A4判 上製・26頁・1,296円

カール・バルト説教選
しかし勇気を
出しなさい

待降・降誕・受難・復活
佐藤司郎 編・解説

カール・バルトのクリスマス期、イースター期の名説教を精選し、各編に解説を付す。
四六判 並製・248頁・2,592円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)

http://bp-uccj.jp

日常なやりとりの中で、主イエスへの愛を
朝岡 勝、大嶋重徳著

教えてパスターズ!!



増田将平

居間のテーブルに置かれていた本を見て長男が言った。「パパ、またパスタ料理作ってくれるの?」「パスタじゃない、パスターズだ!」すると妻が本書を手にとって言う。「あら、『あなたの悩み、牧師と一緒に考えます』これいいじゃない。『牧師が答えます』と言わないところがいいわね」。

本書は太平洋放送のウェブ番組から生まれた。従来の一問一答スタイルではなく、二人の牧師の対話で進められていくところに特徴がある。この番組には台本がほとんどなかったという。例えば一人が質問する。「先生、罪ってなんですか?」するともう一人がやさしい言葉で答える。片方の言葉がリスナーに理解しづらいと思われる、他方が尋ねる。「そうなる、どうということなんですか?」二人はすでに正解を持つ者として話してはいない。だから「なるほど」と相手の話に感心し、対話の中で心を燃やされて感動するのである。

この番組、そして本書の親しみやすさの理由は二人の立ち位置にある。教師が一方的に生徒に教え込む位置にはいない。質問者、リスナーの横にちよこんと座って、一緒に考えつつ、語

り合う。その対話は正直で気取ることが微塵もなく、赦された罪人として生かされている一人のキリスト者、牧師の喜びが所々で滲み出ている。だからこの本を読んでいると、あたかも自分が二人の牧師の横に座って、会話の輪の中にいるような錯覚を覚えるのだ。この番組がPodcastカテゴリーランキング一位を獲得し、一万人近いリスナーがいたことも頷ける。

本書に登場する二人の牧師とは朝岡勝牧師(日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会)と大嶋重徳牧師(KGK総主事、鳩ヶ谷福音自由教会協力牧師)だ。お二人とも若者たちの良き牧者であり、教団内外で多岐に亘る働きを担っておられる。大嶋牧師は日本基督教団主催の教会中高生・青年大会「リフォーユース500」の開催を励まし応援してくださった。番組には教派を超えたゲストたちも参加しており、本書にも私の所属する日本基督教団の牧師も登場する。

番組に寄せられたのはどれも真摯な質問ばかりだ。いくつか紹介したい。

「クリスチャンホームに生まれ、ぬくぬくと育ってきました。

はつきり言って、罪ってなんですか? 罪がわからないと神さまの愛や、十字架についてわからないなと思います」「クリスチャンですが神さまの愛がよくわからないです。頭ではわかっている気はします。けれど実際に想像してみると、代わりに死んでくれるなんて嘘でしょ。と、思ってしまう」「神さまはどうしてビックリするような落ち込む出来事を起こされるのでしょうか。最近そんなことが周りにもたくさんあります。それは神さまが愛してるからだと言われても、正直なんで? と……」。

さて、みなさんはどう答えるだろうか。本書は配慮が行き届いておりとても読みやすい。聖書に馴染みがない読者のために「ペトロ」「トマス」「ハイデルベルク信仰問答」など脚注に用語の説明が添えられている。そのほか脚注に入れられた番外編のやりとりも愉快で、思わず声を出して笑ってしまった。ちなみに二人は根っからの野球好きだ(どの球団のファンであるかはあえて伏せておく)。聖霊なる神と野球をめぐる話でも、「野村再生工場」という言葉が出てくるが、説明のおかげで野球を知らない私でもよく理解することができた。面白かった番外編の一つは、イエスさまのイメージは? という話。なんと大嶋牧師のイメージは漫画『北斗の拳』の

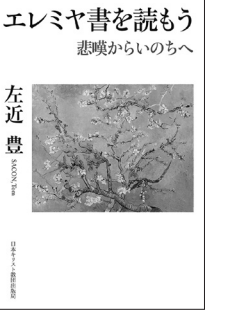
登場人物、「ラオウ」だという。私は「トキ」なのだが……。理由が気になる人は本書を手にとって確かめてほしい。こんな日常的な楽しいやりとりの中にも主イエスへの二人の熱い愛が感じられて嬉しくなる。

書評を仕上げるのに時間がかかってしまった。さつと読み終えることができるだろうと高を括っていた。読みやすいが、中身が濃いのだ。これまで教会で育まれ養われてきたこと、ご自身の信仰の歩みから得た洞察など、お二人の持てる良いものが惜しみなく注がれており、一言ひとことに、まさしくキリスト者の実存が込められている。さらに聖書の言葉に根ざしたイメージ豊かなコメントの数々は、説教黙想集を読むような味わいもあることにも気がついた。一言読んで立ち止まり、一緒に思い巡らす。実は熟読玩味すべき一冊である。

(ますだ・しょうへい) 日本基督教団青山教会牧師
(A5判・二二〇頁・本体一五〇〇円+税・キリスト新聞社)

聖書全体の光の下に浮かび上がる、真実な語り
左近 豊著

エレミヤ書を読もう
悲嘆からのちへ



朝岡 勝

イザヤ、エゼキエルと並ぶ旧約の大預言書の一つ、エレミヤ書。激動の時代に生きた預言者の言葉は、「一見、様式的にも神学的にも歴史的にも一貫性が見られず、色々な要素がバラバラに配置されているような印象を与えます」（二〇五頁）とあるように、読み手の前に立ちはだかる大きな壁のように見え、たじろぐような思いを抱きがちです。

そんな私たちに『エレミヤ書を読もう』と呼びかける本書は、全体で二三四ページ。エレミヤ書のポリウムからすると決して大部な本ではありません。ところが、実際に手に取って読み始めてみると「それぞれの部分が独自の色合いを出しつつ、全体の模様にとってかけがえのない一部を構成するパッチワーク状の様相を呈している」（同頁）と言われる、驚くほどの広がりや奥行きを持つ聖書の世界が立ち現れてきます。それがこの小さな書物の中に凝縮されているのですから、聖書を読み明かす著者の手腕はまことに見事です。評者も本書の頁をめくりながら、一言一言に圧倒され、なかなか先へと読み進むことができないという経験をしました。一文一文が緊密濃厚で、一ペー

ジをじっくり咀嚼していると、それだけで時が過ぎてしまうような感覚を覚えたのです。

そのような幸いな読書経験を通して教えられた点を、以下に四つほど挙げてみましょう。

第一に、聖書全体の光の下でエレミヤ書を読むということです。本書ではエレミヤ書の全体が一一の章と三つの説教によって説き明かされています。「序」で「主なる神を、エレミヤ書は証している」（二三頁）と、エレミヤ書の基本的な性格付けが示され、その後、エレミヤ書全体の中の各テキストの意味が綿密な釈義に裏付けられながら立体的に展開されます。エレミヤ書のメッセージが旧約聖書全体の中で捉えられている点も重要です。本文中、旧約、新約の各書が的確かつ自在に引用され、聖書全体の光の下で、エレミヤ書のメッセージが浮かび上がってくるのです。

第二に、神の民の交わりの中でエレミヤ書を読むということです。本書に一貫しているのは、「神の民」（九、八一、一一三、一二四、一二八頁）、「聖書の民」（一〇、一一、五八、六〇、六二、しつつ、一言一言を紡ぎ出された説教者の言葉を聴くでしょう。

第四に、「抜き、壊し、滅ぼし、建て、植え」る契約の神の真実な語りかけとしてエレミヤ書を読むということです。著者はエレミヤ書の主題が一章九節から一六節にあるとし（一九頁以下）、さらに三〇章一六節から三二章にかけて主なる神の「逆回転」（九二頁）が起こると語りまします。そして「人間の歴史の断絶を深いところで繋ぎとめる『神の契約』によって、人は混沌の中にも堅く立つ礎をもつことができる」（二二六頁）と、崩れと破れに満ちた暗い時代を生きた私たちに、契約への真実を全うされる神と、その神の「建て、植える」救いへの希望を語るのです。

評者はかつて若い日に、エレミヤ一章七節で伝道者として生きる決断を与えられました。本書を通して悲嘆の淵からのちの途へと決断をもって導かれる方々が起こされることを切に願います。（あさおか・まさる 日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会牧師）（四六判・二二六頁・本体一四〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

八一、八三、一〇〇、一二三頁）、「信仰共同体」（五七、七五頁）

への言葉としてエレミヤ書を読む姿勢です。著者は旧約学者として、牧師として、大学教員として、雑誌の連載、大学の講義、教会の礼拝説教、家庭集会の学びにおいて繰り返しエレミヤ書を説いて来られました（「あとがき」参照。「聖書は、それを常に新しく物語り、生きる人々の命のリレーを経て、時代を、民族を、国を超えて、私たちの手元に届きました。エレミヤ書の語る神との出会いに生きる聖書の民へと私たちも招かれているのです」（二二頁）と語られる通り、本書は私たちをもその交わりに招き入れる言葉でもあるのです。

第三に、今を生きる私たちへの神からの語りかけとしてエレミヤ書を読むということです。古今東西の文学や、歴史上起こった出来事の証言の言葉がちりばめられ、それらがエレミヤの生きた時代と私たちが生きる今の時代をリンクさせます。とりわけ私たちは、三・一一後のこの国にあって、深いうめきと嘆きを我が身に引き受けて、神の御前に逡巡し、神の言葉と格闘



新刊
宗教改革
500周年と
わたしたち
5

ルター研究 別冊5号

ルター研究所 編
●A5判並製 定価：2,000円＋税

ルターの脱構築
江口 再起

ルターにおける「律法と福音」、
その重層的構造
石居 基夫

今日的課題としての
「ルターと聖書」
立山 忠浩

ルターと十字架の神学
宮本 新

ルターを囲む人々と
その時代風景
高井 保雄

宗教改革と美術
真下 弥生

メンデルスゾーン
交響曲第五番《宗教改革》
加藤 拓未

LWF・ルター派聖書解釈学研究文庫
ルター派共同体における聖書
安田 真由子 訳／李 明生 解題

LITHON [リトン]
〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

透明な言葉が読む者の心に響く

八木重吉詩

おちあいまちこ写真

うつくしいもの

八木重吉 信仰詩集



沢 知恵

じたものです。このたび約二十年ぶりに読んで、その印象は変わりません。

「うつくしい」は、英語では beautiful ですが、日本語では「もののはあはれ」のようなかなしさやさびしさが漂います。賢治もみずゝも槐多も重吉も、ニュアンスは微妙にちがいますが、さらりと「うつくしい」とうたいます。重吉はもともと「うつくしい」を連呼した詩人でしょう。

「わたしみずからのなかでもいい／わたしの外の せかいでもいい／どこにか『ほんとうに 美しいもの』は ないのか／それが 敵であっても かまわない／及びがたくても よい／ただ 在るといことが 分りさえすれば／ああ ひさしくもこれを追うに つかれたころ」(「うつくしいもの」全文)

「空よ／おまえのうつくしさを／すこし くれなにか」(「空」全文)

そして、代表作ともいえる「素朴な琴」。

「この明るさのなかへ／ひとつの素朴な琴をおけば／秋の美しさに耐えかねて／琴はずかに鳴りいだすだろう」(全文)

八木重吉の詩は、若いころに読みました。二十代半ばで祖父、金素雲の『朝鮮詩集』(岩波文庫)をうたうようになり、日本語の詩にぐいぐいひびつばられていく中で出会いました。やはり好きなのは、響きが音楽的な詩。はじめて感動した日本語の詩は、中学校の教科書にのっていた谷川俊太郎の「朝のリレー」ですが、約十年の空白を経て、宮澤賢治、金子みすゞ、村山槐多、そして八木重吉に導かれました。他にもいろいろ読みましたが、圧倒的なリアリティーで迫ってきたのが、この四人のことばです。恥ずかしくなるくらいストレートなのに、ちつともえらそうでなく、そばでささやかれているような親しみを感じました。四人の生まれた年、死んだ年がほぼ重なること知ったときは、身震いがしました。明治でも昭和でもない大正にことばを紡いだ人たち。何も言われなければ、現代に書かれたと錯覚してもおかしくないほど、ことばに古くささがあります。声に出したら、そのままメロディーになりそう。特に八木重吉からは、まさに「がらす／びいんと／われ」(「ほそい がらす」より)るような透明感と、突き刺してくるような痛みを感じ

いったいくつの「うつくしい」が出てくるか、数えたらおもしろいかもれません。多義的でありながら、他の表現では言いかえることのできない、あふれ出る思い。「うつくしい」自然を賛美し、「うつくしい」心でありたいと追い求めた重吉の姿が浮かび上がります。

「いつになったら／すこしも 人をにくめなくなるかしら／わたしと ひとびととのあいだが／うつくしくなりきるかしら」(無題)

二十九年の短い生涯に発表した詩集は『秋の瞳』一冊だけ。生前は英語教師でした。多感な時期にキリスト教と出会い、タートルやキーツを愛読し、つぶやくように短いことばで思いをつづるようになりました。ことばのきれはしを含めた詩稿もあわせると、約三千編のごされ、お連れ合いのとみ(のちに吉野登美子)が戦争中もかごを抱えて守り、重吉を評価する多くの人の手によって広まっていきました。

八木重吉の詩と静謐な写真とが響きあう珠玉の詩集



うつくしいもの

贈り物に最適

おちあいまちこ 写真
八木重吉の詩は素朴で力強い。信仰詩を中心に72編を精選し、静謐な写真を添える。歌手の沢知恵氏による解説付き。
A5判変型・800頁・1296円



カラー

エレミヤの言葉を現代に甦らせる

エレミヤ書を読もう

左近豊

エレミヤ書を読もう
左近豊
祖国ユダ王国の崩壊期に民と悲しみを共にし、未来の希望を指し示した預言者エレミヤ。その言葉をこの暗い時代にこそ聴き直す。
四六判・136頁・1512円

この詩集のタイトルには「八木重吉 信仰詩集」とありますが、「うつくしいもの」「素朴な琴」「ああちゃん」「祈」の四つの章に分かれていて、厳密には最後の「祈」がいわゆる信仰詩集にあたります。私が特に好きなのは、この二編です。

「神様 あなたに会いたくなつた」(「無題」全文)

「天に／神さまがおいでなされるとかながえた／むかしのひとはえらい」(「断章」全文)

これはもうパンク・ロック！ 思わずこぶしをふりあげたくなります。同時に、賢治、みすゞ、槐多がうたった「神さま」も思い出したりして。日本語でいう「神さま」、そして重吉が信じたキリスト教の神さまについて深く味わえるという意味で、クリスチャンでもそうでない人にもおすすめします。

(さわともえ 歌手、日本基督教団岡山教会員)
(A5判変型・八〇〇頁・本体二二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 〆03-3204-0457
E-mail eigyouto@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
http://bp-uccj.jp

素朴な疑問から浮かび上がる現場の知恵と思

黒田 裕著

今さら聞けない!? キリスト教

聖書・聖書朗読・説教編

ウイリアムス神学館叢書Ⅱ



吉田雅人

京都にある日本聖公会の神学校の一つ、ウイリアムス神学館では、二〇一四年春から信徒の方々を対象に「今さら聞けない!? キリスト教講座」を開講している。この講座は「教会生活は長いだけでも、今さら聞くのはちょっと恥ずかしい、そのような疑問に答える」ために始められた。

というわけでこの講座では、参加された信徒の方々からの「今さら聞けない」質問に答えていくのだが、ある意味で素朴な質問に答えるのはなかなか難しいものである。というのは、答えの前提となる知識・学説についても知っていたく必要があるからだ。著者はそれらをなるべく専門用語で語るのではなく、丁寧な答えている。従って、聖書学に関する特別の知識を必要とすることなく読むことができるのはありがたい。本書は、このようにして行われた二〇一五年度の講座の講義録をもとに、著者が加筆修正してまとめたものである。

本書は「聖書に関する全般的な説明（47項目）」、「礼拝の中で朗読される聖書について（11項目）」、「説教とその準備について（24項目）」という、三つの章から構成されている。

それぞれに興味深いのだが、中には手厳しい質問も見られる。いくつか紹介してみよう。

- ・新約聖書は誰が書いたのか
- ・なぜ福音書は四つなのか?
- ・ゲッセマネでの祈りは誰が聞いていたのか
- ・聖書朗読で気をつけることは
- ・なぜ「説教」というのか?
- ・説教を聞くときには……

「新約聖書は誰が書いたのか」という問いに対して著者は、パウロの真筆と認められている七つの書簡以外は、誰が著者なのかはつきりとはわからないと説明する。そして「特定の信仰共同体の歩み、つまり現場の営みにおいて聖書が誕生し、読まれ、時代を通じて多くの人びとに慰めと励ましを与えてきた」（二〇頁）と結論づけるのである。

また「聖書朗読で気をつけることは」という問いに対して、

著者はR・フッカーの「聖書朗読において恵みの霊が働き、教会の司牧において有用な手段」という言葉を紹介する。そして「会衆席の後ろでも聞き取りやすいような音量や速度で朗読することを心がけるとよいと思います。イエス・キリストを通して神からの福音の宣言がそこに集うすべてのひとに漏れなく伝わるために」（二二九頁）と結ぶ。著者の宣教師・牧会者としてのありようが、ひしひしと伝わってくる一文であろう。

著者はウイリアムス神学館で「説教論」を担当しておられることもあり、「説教」について本書の約三分の一を裂いている。「説教とは何か」という問いから「説教を準備する」という具体的な事柄まで、丁寧に答えている。そしてこの章の最後で、「子どもと説教」という課題を取り上げている。ことに現代社会の様々な環境（ひとり親世帯、児童虐待やネグレクト等々）の中で生きている子どもたちに、どのように聖書の福音を響かせることができるのか、それがわれわれの課題だと言う。そし

て著者の経験から得た、様々な例を提供してくださる。その上で、「子どもたちは大人が思っている以上に、子どもなりの仕方で……考えている。そのことを踏まえれば、おのずと、わたしたちが子どもたちに向かう姿勢も変わってくる」（一九七―一九八頁）と結ぶ。

本書は二〇〇頁ほどの小著であるが、教員とこの講座に参加した信徒の方々の知恵と思いが詰まっている。信徒の方々はもちろん、宣教師会の第一線で奮闘しておられる教役者の皆さんにも、是非お読みになることをお勧めする。

（よしだ・まさと＝日本聖公会東北教区主教）
（A5判・二二二頁・本体一五〇〇円＋税・教文館）



教文館の本

http://shop-kyokushin.com/

好評発売中



世界が絶賛！ 巨匠手塚の遺作アニメ ● 本体28,500円

手塚治虫の旧約聖書物語

豪華9枚組コンプリートDVD BOX + 公式スペシャルガイドブック

天地創造からイエスの誕生まで、壮大な聖書の世界を描いた全26話。世界が絶賛した聖書アニメの最高峰が、手塚治虫生誕90周年を記念して待望の復活！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 内容見本・図書目録 ● 価格は税別

短くやさしい歌詞に込められた願いと祈り
大塚野百合著

子どもの賛美歌ものがたり イエスさまいるってほんとかな



子どもがたり
イエスさまいるってほんとかな
大塚野百合
ISBN

塚本潤一

キリスト教保育・教育に携わる者以外は、「子どもの賛美歌」に接する機会ほとんどない。「あれは子どもの賛美歌だから」と敬遠してしまう。著者も子どもから随分と離れてしまったから、今の「子どものことが分からない人間」だったと語る。しかしある事情をきっかけに静養を余儀なくされ、『子どもさんびか改訂版』CDを何度も聴く機会が与えられた。何度も聴くうちに著者は励まされ、慰められ、「大人の賛美歌の世界を忘れて、子どもの賛美歌を口ずさむようになり」、「子どもの賛美歌の世界の扉を開いてみたら、そこに多くの宝物のような素晴らしい歌があった」ことに気づかされた。

こうして著者が、「子どもの賛美歌」と真剣に向き合い、自分が感銘を受けた賛美歌十七曲について自由に書いたエッセイ集が本書である。著者が感銘を受けるのは「主イエスを身近に感じさせてくれる歌」「主が私たちを愛しておられることを感じさせてくれる歌」である。十七曲の内訳は「幼児さんびか」から五曲、『子どもさんびか改訂版』から十曲、「讚美歌」「讚美歌第二編」から一曲ずつとなっている。こうして選ばれた十

七曲をもとに書かれたエッセイは、それぞれが味わい深く、奥が深い。

著者はその賛美歌を取り上げる時に、まずその歌の概説を語る。次に外国で作られた賛美歌であれば、その原曲にあたる。


それを私訳して、現行の日本語訳と比較し、訳詞の素晴らしいところや、翻訳では削らざるを得なかった大切なメッセージを見いだす。そこから著者が持っている膨大な賛美歌に関する知識やネットワークを駆使して、その賛美歌の世界を大きく広げていく。言わば「子ども賛美歌」を一つの窓にして大きく広がる信仰の世界、賛美の世界へと私たちを誘ってくれるのである。

そのために著者は独自の調査を綿密に行う。たとえば『ガラヤのかぜかおるおかで』の作者、別府信夫についてあまりにも情報が少ない中、銀座教会へ転入会した時の魂の遍歴についての文章を見つけ出し、「信じる」とは私の感じや経験にかかわらず神のみ言葉を真実の言葉として受け取ることであり」という信仰的確信の元、この歌が作られたことを紹介している。あるいは『いつくしみふかい』の作者スクライヴンの写真を


を願って』いる。そして最後に『おなかのすいたイエスさまに』を取り上げ、誘惑について「自分は自分が書く本で人々から喝采を受けたいと願っていたのではないか。自分の最も霊的な行動さえもが、虚栄心に汚されていた」というカトリックの司祭ナウエンの言葉を用いし、誘惑に陥らず謙虚に生きる姿勢を新たに。「子どもの賛美歌」といつてあなどることなかれ。そこには、素晴らしい信仰の賛美とキリスト教の希望への扉が開かれているのだから。そして何よりも、大人も子どももみんな、「神さまの子ども」なのだから。ぜひ一読をお勧めしたい。

(つかもと・じゅんいち) 日本基督教団声屋浜教会牧師
(四六判・一五八頁・本体二〇〇円+税・教文館)

見つけて作者へのイメージが変わり、「私は頭ではイエスさまを信じているつもりですが、生きているイエスさまと親しく語り合っていないことに気づきました。あなたのおかげで大事なことを教えられて、ありがとうございます」と語りかける。著者はヨーロッパ・アメリカのキリスト教の衰退を嘆き、日本のキリスト教に大いに危機感を抱いている。アイザック・ウォットの賛美歌から「私たちの賛美は形だけで、感動が欠けています。賛美の言葉は口もとでしぼんでしまい、礼拝は死んでいます」と引用し、「聖霊が世界の、日本の教会に吹き、世界が霊的生命に溢れるよう、祈りましょう」と記している。そのような中で「子どもの賛美歌」を紹介し、そこに込められたみずみずしい信仰の息吹を著者は見いだす。『子どもさんびか改訂版』しかり「これもさんびか」ネットワークしかり、それらの新しい賛美歌に「日本の教会を活性化する鍵」を見いだし、「主イエスにある望み、喜びが日本の教会にもたらされること



新刊



宗教改革期の
芸術世界

上智大学キリスト教文化研究所 編

宗教改革期の 芸術世界

上智大学
キリスト教文化研究所 編
●四六判並製 本体 1,500円

本書は、2017年の聖書週間に上智大学にて行われた聖書講座をもとに、書き下ろした論集（磯山雅氏の論文は逝去のため未収録）とシンポジウムを収録した。

宗教改革期の教会建築
中島 智章

●
トレント公会議と美術
一奇蹟の聖母像と聖地ロレト
児嶋 由枝

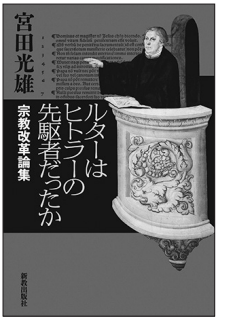
●
シンポジウム
宗教改革期の芸術世界
司会
竹内 修一
提題者
中島 智章
児嶋 由枝
磯山 雅
ISBN978-4-86376-067-7

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

興味尽きない論点に満ちた名著
宮田光雄著

ルターはヒトラーの先駆者だったか
宗教改革論集



佐藤司郎

宗教改革五〇〇年、記念の年は過ぎたが、余韻はまだまだ残っている。

そうしたなかで宮田光雄先生の本格的な宗教改革論集が刊行の運びとなったことはほんとうに喜ばしい。五〇〇年記念で刺激を受けたわれわれの渴望を満たし、さらなる関心を呼び起こしてやまない一冊である。どの章も、著者ならではの丁寧で分かりやすい背景説明、驚くような細かな事実の指摘、あるいは今日の視点からの鋭い問題意識など、興味を切らずに読み進めることができる。

「Ⅰ 宗教改革の原点——歴史と伝説のあいだ」では一五一七年の九十五箇条の論題提示から始まる「マルティン・ルターの闘い」が、ヴォルムス帝国議会をへて、プロテスタンティズムの成立までたどられる。とくにヴォルムスでのルターは一つの物語の主人公のように強くわれわれの脳裏に焼き付いた。著者の経験も交えて語られる「ルター伝説のトポグラフィ」(雷に打たれたというシュトゥッテルンハイムや、ヴァルトブルク城に残るインクの染み跡など)によってわれわれはルターその人の

をより身近に知ることができる。

「Ⅱ 美術史の中の宗教改革」は宗教改革にからむ五人の芸術家を取り上げられる庄巻のチャプターである。ヴィッテンベルクにあつてルターとともに歩んだルーカス・クラウナハ。終生ルターへの尊敬と宗教改革に対する関心を失わなかったアルブレヒト・デューラー(彼によるルター像が描かれなかったことを著者とともに心から残念に思う)。「長い間の忘却から目覚ましい復活を経験した」リーメンシュナイダー。イーゼンハイムの祭壇画で名高いグリュネヴァルト。そこに描かれている洗礼者ヨハネの大きな指を巡る考察はじつに興味深い。ヨハネの指には「意外なものが握られていることに気づかされる。人差指以外の他の四本の指で何かを押さえているように見えることだ。それは、あるいは当時の画家が用いていた特殊な絵の具なのであろうか。……もしそうだとすれば、この有名な洗礼者ヨハネの手は、同時に画家グリュネヴァルト自身の手でもあったことになるだろう!」(二三五頁)。しかしこの問題はまた完全な決着はついていないようだ。最後に一六世紀ネーデルラン

ドのピーテル・ブリューゲル。彼の諸作品の詳細な読み解きが表示される。

宗教改革五〇〇年は必ずしもルター五〇〇年ではない。「Ⅲ 宗教改革の精神と神学——ルター・カルヴァン・バルト」ではルターとカルヴァンにおける「二つの宗教改革」がはじめてたどられる。著者によって明らかにされるのは対立点とともに「二つのものは、救いを神の恵みに負うものとする贖罪体験を共通している」(二〇六頁)という「基本的同質性」である。次に「宗教改革者たちを越えて」進むバルトが取り上げられ、宗教改革者たちの予定論がバルトにおいて「神の恵みの選び」としてとらえ直されたときに開かれた広く長い救いの射程が明らかにされる。

「終章 ルターはヒトラーの先駆者だったか」は著者にしてはじめて可能な論考といつて過言でない。疑問文としてのこの論題への著者の答えは明白な否である。「宗教改革を記念する

催しがナシヨナリズムと結びついてきた歴史」(二頁)が批判的に検証され、それとの関連でフロムが『自由からの逃走』で示したヒトラーと「直結」させる宗教改革観、そのルター像やカルヴァン像に疑問符がつきつけられる。最後にルターのユダヤ人文書をどのように見るとかというきわめて難しい問題に終章は取り組む。「神の寛容」(二五九頁)の議論はもともと興味深い。様々な視点を輻輳させながら問題に迫り、著者もヤスパース同様、ルターからアウシュヴィッツへ一直線に断定的に結びつけることに与しなかった。

興味尽きない論点をそろえた本書は宗教改革五〇〇年の喧嘩が過ぎた今こそじっくり読まれるべきである。

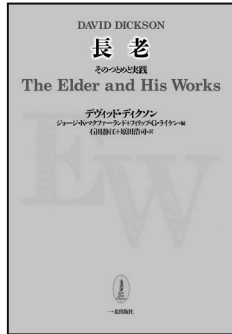
(さとう・しろう) 日本キリスト教団仙台北三番丁教会教師
(四六判・二七八頁・本体一七五〇円+税・新教出版社)



長老

そのつとめと実践

デヴィッド・ディクソン
石田静江・原田浩司*訳



長老の適性・具体的な職責とは、
神の民のよい羊飼いとなるための
簡潔で確かな手引き。
いま改めて治会長老のつとめを、
本場スコットランドでの
実践から考える。

A5判・並製
定価【本体2,000+税】円
ISBN978-4-86325-116-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

人生の秋は 新しい命につながっている
イエルク・ツインク著
眞壁伍郎訳

わたしはよろこんで歳をとりたい



大澤秀夫

ドイツから美しいクリスマスプレゼントが届きました。その到来のいきさつが、訳者の「あとがき」に書かれています。

日本の「いのちの電話」の創始者で、今はドイツにおられるルツ・ヘットクンプさんから眞壁伍郎さんに電話があったのが二〇一七年の春でした。「長い入院生活の中、自分が慰められた本がある。あなたに翻訳してほしい。日本の友人たちへの贈り物にしたい。」できあがった翻訳を眞壁さんが、ルツさんからの贈り物として友人たちに届けたのが、その年のクリスマスでした。慰めと励ましを受けた人々の間では、コピーがまわされました。そして一年がたち、今度は私たちに、この美しい本が届いたのです。

ツインクさんは二〇一五年に本書を出版した翌年、二〇一六年に九四年の生涯を閉じられました。ですから、この本はいわばツインクさんからの最後のメッセージになりました。ツインクさんは一九二二年生まれ、ルツさんは一九三三年生まれ、そして眞壁さんは一九三六年生まれですから、この本は、人生の少し先輩たちからのクリスマスの贈り物です。

ろの旅を表しています。

これは決していつきに読む本ではありません。最初わたしは自分の机にむかって読み始めましたが、すこしゆったりとした椅子に移動しました。ページを開いたままにして「こころの家のまえのベンチに座り」、思いを行き来させます。ルツさんは病床で読みました。いや、思いめぐらしたはずです。

わたしは三十年ほど前、子育ての時期に、ツインクさんの『幼児の心との対話』と『子供たちとの対話と祈り 神さまようこそわが家に』に大いに助けられました。ツインクさんは上から押し付けるような語り方をしません。子どものいる場所から、いっしょに感じ、考え、ふさわしい言葉を見出します。それはテレビを通じて広く人々に語りかけた経験からもきているのでしよう。三百冊にもなる著書の累計売上部数は千七百万部とのこと。そのツインクさんが、この本では老いの当事者として思いめぐらし、心から心へと語りかけているのです。

この経過を知って、わたしはクリスマス物語のシメオンとアンナ（ルカ福音書二章）を思い出しました。幼子のうちに救い主の誕生と、将来の光を見たシメオンは、「主よ、今こそあなたはお言葉どおり、この僕を安らかに去らせてください。いと神を賛美しました。彼らは、歳はとっていましたが、神からの光を見ることによって、新しい人とされました。ルツさん、眞壁さんによって届けられた、ツインクさんのこの美しい本は、わたしたちに死の先にある光と希望を教えてください。本文五六ページというちいさな本ですが、見開き二十三面に二〇枚の大判の写真が添えられています。ですから、これはほとんど写真集です。でも、もちろん大切なのは言葉です。ツインクさんの言葉と、添えられた写真の一つひとつが響き合って、読者のこころに向かって対話をうながします。みずみずしい花と緑の葉の写真から始まって、百年、そして三百年立ち続けた老木、紅葉に燃える樹木、夕暮れの野原、平原の虹、夕映えの海岸、高山から望む雲海の日没、山のむこうの残照。それは、長い生涯をふりかえりながら思いめぐらすツインクさんのこ

「齢をとったのは もうまぎれもない事実だ」、「老いたのだこれはまぎれもない」。身にしみる老い、衰え、見くだされること。しかし、ツインクさんは言います。「それでも わたしは よろこんで歳をとろう」。

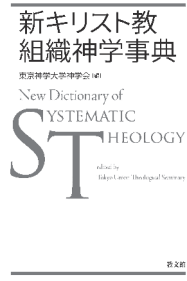
最終ページは次のように結ばれます。「いま わたしはもう一度若くなりたいとは思わない わたしは 喜んで 歳をとってきた そして 人生という時の境をこえて 神が共におられたことを こころから感謝している わたしと 人生と永遠とその境は わたしにはいよいよなくなってきた わたしはいま あの夕日が沈む 山の向こうの光のあるところに 立ちとうとしている」。ツインクさんが最後に見たのは希望でした。

（おさわ・ひでお 日本基督教団茅ヶ崎平和教会牧師）
（A5判変型・五六頁・本体二〇〇円＋税・こぐま社）



教文館の本

http://shop-kyobunkwan.com/



東京神学大学神学会編

●四六判・400頁・本体4,200円

新キリスト教組織神学事典

長年愛用されてきた事典の項目を見直し、すべて新たに書き下ろされた新版。スタンダードかつ最高水準の事典。

佐藤 優氏、平野克己氏、吉田 隆氏推薦！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈/図書目録 ●価格に税抜

人間の尊厳の回復を示唆する貴重な証言
工藤信夫著

トウルニエとグリユーンを読む！
暴力と人間



坪井節子

精神科医として臨床の現場に長く携わりつつ、日本のキリスト教のあり方を問い続けてきた著者が、人格医学を提唱したポール・トウルニエ（一八九八―一九八六）、心理学者アルノ・グリユーン（一九二二―二〇一五）、高名な大学教授から障害者支援の場へ転身したカトリック司祭ヘンリ・ナウエン（一九三二―一九九六）等の著書を読み解き、自身の著書や著者主催の読書会参加者のレポートを紹介しながら、暴力に支配される社会の現実を切り開く希望を探し求める。全体は四章で構成され、「暴力と人間（トウルニエ）」「強い人弱い人（同）」「従順という心の病（グリユーン）」「女性であること（トウルニエ）」が各章で取り上げられている。

著者の問いは、精神科の患者の中に、教会の指導者に従うことを強制され、魂を引き裂かれた真面目な信徒が多数いたことから始まる。トウルニエは言う。我こそは真理を持つているのだと信ずることほど人間に力を与えてくれるものはない、と。この世界を変革し、苦しんでいる人々を解放しようとするところに入り込む無意識的な暴力。メシア・コンプレックスの罠。

現代人が追い求めてきた力、強さへの渴望、暴走が、物理的暴力、心理的暴力を生み出し、組織、権力による支配は、軍事政治、経済のみならず、医療、福祉、宗教の領域をも侵す。弱さ、小ささを価値なきものとして、パワーハラスメント、虐待、DVなどの病的な現象を引き起こし、精神疾患に苦しむ人を増やす。トウルニエは、組織もまともにもなく、整った深い教義もなく、イエスとの出会いと兄弟的交わりだけが大切にされる小さなグループに活路を見出す。確かに教会がそのような場を提供できたら、どれほど救われる人がいることかと思う。

1章の付記（七〇頁以下）で紹介されるナウエンの「弱さの神学」も示唆に富む。引き裂き破壊する力から、結び付け癒す力へ向かうための三つの提案。①身近に、そして世界中にいる貧しい人々に目を注ぐ。②貧しい人々を、真心から世話するために必要なものを、神は与えてくださると信頼する。③予期せぬ悲しみに気落ちするのではなく、予期せぬ喜びに気づく。そうすれば、神の奇跡を見ながら暗闇の谷を歩き通すことができる。このメッセージは、虐待のために行き場を失った子どものシ

エルター活動に従事している筆者には、ことのほか心強く響く。3章では、暴力、従順が生まれる過程のグリユーンによる心理学的説明が詳述される。中でも、財産や地位という外面的なもの獲得競争に与れず、人格に関わる内面的価値を軽んじられ、暴力や屈辱を受け、社会的に軽視された人が、自分が無価値だという考えを麻痺させるため、敵対者もしくは自分が一体化できる強い暴君を必要とするとの指摘には、ヘイトスピーチやトランプ現象など、昨今の社会情勢を顧みて強く肯ける。シエルターに避難してくる虐待を生き延びた十代の子どものたちは、幼い時に両親に受容された体験がなく、常に暴力や冷遇の下で、従順である以外に生きる術がなかった。長じて親を離れても、自分の存在を肯定できず、人を信じるのができない。他者を攻撃し、孤立を恐れて人や性や薬に依存する。子どもを産んで虐待の連鎖を引き起こす。グリユーンの分析は、私たちの現場体験そのものである。

グリユーンは、解決策として愛や共感を提示する。著者も述

べるように、拍子抜けするほどシンプルな提言である。しかし、暴力、支配と服従、人間疎外の対極にあるのは、人と人との対等なパートナー関係から生まれる、人間の尊厳の回復しかないのだと思う。傷つき果てた子どもたちと共に生きることが、辛い。目を背けたくなるような現実を前に、私たちはあまりに無力である。しかしその無力の極みの中で、支援者たちがスクラムを組み、ひとりの子どもを真ん中にして寄り添い続ける。すると固く閉ざされた心の扉が、そっと開く時が来る。本当は生きていきたい、愛されたいという小さな炎が見える喜びの瞬間である。まさに本書で語られる、無力な貧しい者どうしが、共に生きることそのものをめざす、小さなグループの中で、子どもがひとりの人間として、息を吹き返すのである。もしそれがイエス・キリストの臨在の証であり、この世の教会の役割のひとつの形であるなら、どれほどにうれいことだろう。

（つばい・せつこ）社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事長／弁護士
（四六判・三〇四頁・本体一六〇〇円＋税・ヨベル）

ヨベルの新刊案内

広島女学院院長・学長 **湊晶子**
初代教会と現代
教会と国家、信仰と教育、女性と社会―生涯をかけて綴った初の論文集― 女子教育を力強く牽引してきた著者の学問の出発点となった初期キリスト教研究や国際化時代におけるリベラル・アーツの重要性、女性の自立と社会参画への道を追求した記念碑的著作。

A5 判上製 526頁 3,500円

日本同盟基督教団 西大寺キリスト教会主任牧師 **赤江弘之**
聖書信仰と教会形成
聖書を字義通りに解釈し、愚直なまでに聖書に忠実な教会づくりの心血を注いだ50年の牧師人生を通して語る「恵みの終活」。

新書判・1,000円

JECA 八幡キリスト教会牧師 **山口勝政**
福音主義聖書論 あなたのみにこ
健全な聖書観なしに健全な教会形成なし。現代に聖書の「無誤性」を力強く宣言する書。地方伝道に長く携わってきた一牧会者論考。

46判・1,300円

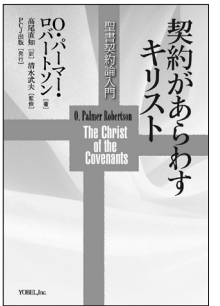
山本文夫・淳子 文/写真
伊豆・川奈に導かれて
日没には時間がある。そのまなに、「いい人生だった」と言ってみたい。地元、「伊豆新聞」連載エッセイを中心に。相模湾を望む伊東市・居川に第二の生き方をそれぞれ構え、〈テイク：Take〉へまかしくギブ：Give〉へまかしく切り換えた時、見えてきたものは……。

46判・1,000円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税別)

神を愛し、聖書を愛する人の必読！
 O・パーマー・ロバートソン著
 清水武夫監修／高尾直知訳

契約があらわすキリスト
 聖書契約論入門



水草修治

「やっとなりますか！」本書の邦訳・出版の知らせを受けて、フェイスブックに思わず書いてしまいました。首を長くして待ちに待つてすでに三十数年。すでにキリンです。

東京基督神学校在学中に、清水武夫先生の契約神学の授業を受け、また、水曜夜の祈り会で創世記二章の緻密な講解を聞き続けて、自分も先生のように聖書を読めるようになりたいと思いました。先生の聖書講解を聞いてみると、聖書のあちらこちらの小川が創世記から黙示録まで一貫して流れる「恵みとまことの契約」という一本の大きな川に流れ込んでゆくありさまが見えてきて、それがキリストという巨大な湖に流れ込んで見事に成就していくさまがありありと見えてきたからです。一例を紹介しましょう。

神は、アブラハムに結んだ契約の通りに、エジプト脱出を果たした民に対して、ご自分が民の中に住んでくださるとおっしゃり、それを幕屋をもって表現してくださいました。「幕屋の入り口に垂れ幕を掛け、(中略)……こうしてモーセはその仕事を終えた。そのとき、雲が会見の天幕をおおい、主の栄光が

幕屋に満ちた。」(出エジプト40・28、33、34抜粋) この幕屋は影であり、本体はキリストです。「ことは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」(ヨハネ1・14) 清水先生が、「住まわれた」と訳されたギリシャ語は直訳すれば『幕屋を張った』なのです。」と指摘されたとき、私は鳥肌が立ちました。

しかも、会見の天幕の入口の垂れ幕に織り出されていたのは、あのケルビムです(出エジプト26・31、33)。ケルビムはエデンの園の、いのちの木を守る御使いです(創世記3・24参照)。聖書がいう「いのち」とは神との交わりを意味します。墮落前、人は園において神といのちの交わりがありました。墮落以来、罪あるままで神の顔を見る者は死ななければならなくなりました。人は神のもとにある永遠のいのちを希求しながら、罪ゆえに神に近づけないというジレンマに陥りました。しかし、人となって私たちの間に幕屋を張られた神の御子イエス・キリストが、十字架で私たちの罪の償いを完了されたとき、神は至聖所

の垂れ幕を破棄なさいました(マルコ15・38)。キリストを通して、私たちは神に近づくことができるようになったのです。

さらに神の幕屋が究極的完成を見るのは、主キリストが再臨し、地と天は跡形もなくなつて(黙示20・11)、最後の審判が完了して、新天地が出現し、そこに主を出迎いに挙げられた聖徒たちとともに主が住まわれる新しいエルサレムが下りてくるときのことです(黙示21・1、2)。その時、御座から大きな声が響き渡ります。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。」(黙示21・3)

神のご計画の全体像を鳥瞰しつつ、聖書の各部分があんなふうに緻密に読めたら、なんと素晴らしいだろう、と思います。そこで私は先生が師事しておられたO・P・ロバートソンのThe Christ of the Covenantsを手に入れてむさぼるように読みました。目からウロコがぼろぼろ落ちて、本はアンダーラ

インだらけになってしまいました。あまりにうれしかったので、私を神学校に送ってくださった土浦めぐみ教会でも、半年ほどかけて、この本の内容紹介のクラスを持たせていただきました。その後も、いくつかの教会で、この本の内容を紹介させていただきましたが、その都度、何人もの方から「目を開かれた」という感想をうかがいました。

そんなわけで、私は神学生から必読書の紹介を求められるときには、かならず必読書リストの中に本書を挙げてきました。ただ、英書ですから、これまでは近づきがたい面がありました。が、このたび、日本語で読めるようになったのです。すばらしいことです。以上、聖書を説き明かす務めのある方たちはもちろん、すべての神を愛し聖書を愛する方たちに、本書をぜひにとお薦めする次第です。

(みずくさ・しゅうじ) 同明基督神学校福音教会牧師・北海道聖書学院教師
 (四六判・四五六頁・本体二七〇〇円+税・ヨベル)



本館の文

重版出来!



A・E・マクグラス 本多峰子訳 ● A5判・734頁・本体7,200円
旧約新約聖書ガイド

創世記からヨハネの黙示録まで

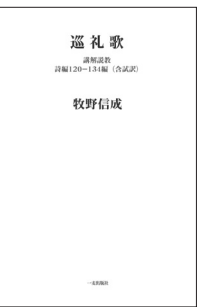
聖書の言葉に生きる神学者による聖書の手引きである。優れた、豊かな、そして確かな二冊である。深井智朗氏(東洋英和女学院院長)推薦!

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
 TEL 03-3561-5549
 呈 / 内容見本、図書目録 ● 価格は税別

祈りの旅を『詩編』とともに
牧野信成著

巡礼歌

講解説教 詩編120～134編(含試訳)



大石周平

本書は、日本キリスト改革派教会の牧野信成牧師による、詩編一二〇～一三四編の説教集(付一九編解説)です。一連の説教は、著者が最初に牧会された千里山教会での仕事(試訳と講解)を基礎にして、当時牧師がいなかった改革長老教会霞ヶ丘教会での礼拝のために整えられました。同じ十五の詩編に関しては、神戸改革派神学校専任教授(当時)としての論文「祈りの旅を『詩編』とともに——詩編一二〇～一三四」(『福音主義神学』三六号、二〇〇五年)もあります。併せて読むと、本説教集には、著者の聖書学者としての視座、牧師としての実践、そして(改革教会の伝統に培われた)信仰者としての祈りの霊性が一つになっていることがわかります。

本書ではまず、個々の詩編の内容だけでなく、配列や前後関係にも十分注意を向けるよう促されます。当該の各詩編が「巡礼歌」(都上りの歌)という表題をもち、『詩編』の中で一つのまとまりをなしている以上、そこに一続きの意味があると考えられるからです。個々の成立事情や類型の分析に集中した古い註解書では見過ごされてきましたが、これは聖書学でも近年い

よいよ関心が高まる大切な見方です。たとえばクムラン第十一洞窟の『詩編』と正典の『詩編』では詩の配列が随分違ったのですが、「巡礼歌」はほとんど共通でした。早くからまとまっていた意味を問うには、順番どおり一歩一歩読むほかありません。

なお、十九世紀以降の歴史主義的な価値判断の影響下にあった学問分野では新しいとも言われるこの視座ですが、それ以前たとえば十六世紀の改革者カルヴァンの註解を見ると、表題もそのまま議論の対象とされていて、今参考になることも多いものです。牧野牧師はこのような「より古い」伝統的知見をも参照し、さらにはエルサレム留学以来ユダヤの聖書解釈にもふれる中で「より新しい」視座に立った正典の詩編研究を重ねておられたのでした。そこに本書の深みも生まれています。

さて、「詩編選釈」でなく「連続講解」をなさる説教者は、一編ずつ順番に、ヘブライ詩の文体や音声を意識した直訳調の試訳を提示しつつ、「神に出会う巡礼の旅」の道行を説き明かされます——神から遠い離散の地、平和のない生の座から「一

二〇編」、出で立つのも帰るのも全道程を主に委ねようと山々を仰ぐ者が「一二二編」、「主の家に行こう」との兄弟の声を受けて出立、ついにダビデの都の門で、諸部族とともにシオンと兄弟姉妹の平和を祈り、語り合うまでの旅路(一二二編)——。

最初の一連の説き明かしだけでも明らかなのは、地上を旅する神の民のドラマです。もちろん第一に、それはイスラエルの歴史的体验に根差した旅のドラマでした。説教でも、出エジプトや捕囚民の帰還など聖書全体から引用がなされ、救いの出来事が想起されます。しかし説教者によれば、歴史の歩みはそこに留まらず、新約時代のメシアの十字架に至ります。説き明かしに耳を傾ける私たちもまた、神から離れた自分がキリストの礼拝に招かれていると気づかされ、日々の祈りに立ち帰ってついに神にまみえる終末的な平安へと向かわされます。

「巡礼歌」の中ほどからは、労働の意味や家庭の幸福に関する「箴言」ともいへば知恵の言葉が目立ちます(一二七、一二八編)。説教者が、家庭崩壊や格差の問題から歴史認識やパレスチナ紛争などの国際問題に至るまで具体的に掘り下げて祈

りの道筋を示されるので、神の家に向かう旅が日常の具体的な生と切り離されることがわかります。神の御前への旅とは、礼拝の外から内へ、内から外へと私たちの日々すべてに関わるものなのだと、詩編をとおして教えられます。

そうして辿り着く「巡礼歌」後半には、具体的な恵みと喜びがあります。「見よ、兄弟が共に座っている、なんとという恵み、なんとという喜び」(一二三編)。「メシアを囲んで」という説教題がつけられた一二三編講解に続くのは、一同こぞつての神讃美と祝福の宣言(一二三四編)という旅の帰結です。ここまで読むと、著者も編纂に関わっておられた『詩篇歌』の旋律が心に響くのを止められません。なお本書には、日々の霊的な学びを助け「御言葉への愛」を育むアルファベット歌(一一九編)の講解も付いていますから、一字一字学びこれを口ずさむ中で、地に足をつけて天を仰ぐ旅を続ける脚力が増し加えられるはず

(おおいし・しゅうへい)日本キリスト教会府中中河原教会牧師
(四六判・二七八頁・本体二八〇円+税・一麦出版社)



巡礼歌

講解説教 詩編120-134編(含試訳)
付 御言葉への愛 119編解説

牧野信成
Nobunari Makino



120編から134編にいたる各編を、無作為に配列されたものとはみなさず、巡礼の旅に見立て、その出発から終点にいたる過程として捉える。試訳、解説、説教が、祈りの旅へといざなう。

四六判・並製
定価[本体2,800+税]円
ISBN978-4-86325-114-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunsho.or.jp>

2018年5月号

巻頭エッセイ：座右の書の著者たちへの感謝 西谷幸介		
NTJ新約聖書 注解ガラテヤ書簡	浅野淳博著、日本キリスト教団出版局	笠原 義 久
パレエ・シューズ	ノエル・ストレットフィールド著、教文館	三 辺 律 子
自伝的伝道論	加藤常昭著、キリスト新聞社	張 宇 成
信仰の基礎としての神学	松田 央著、新教出版社	中 野 敬 一
ストロマテイス（綴織）I	アレクサンドリアのクレメンズ著、教文館	津 田 謙 治
霊魂の不滅か死者の復活か	オスカー・クルマン著、日本キリスト教団出版局	矢 田 洋 子
神と向き合って生きる	横田幸子著、新教出版社	大 嶋 果 織
義認と自由	ドイツ福音主義教会常議員会著、教文館	藤 掛 順 一
神の国	及川 信著、一麦出版社	左 近 豊

2018年4月号

巻頭エッセイ：人を嘘つきにするほどの古典を読みたい 久下倫生		
新・明解カテキズム	全国連合長老会日曜学校委員会編、教文館	吉 村 和 雄
ふたりのスケーター	ノエル・ストレットフィールド著、教文館	徐 奈 美
VTJ旧約聖書注解 出エジプト記1-18章	鈴木佳秀著、日本キリスト教団出版局	池 田 裕
いのちの水	トム・ハーバー作、新教出版社	奥 田 知 志
コリント後書講義	小川 修著、リトン	清 水 芳 樹
新版 祈りの精神	P.T.フォーサイス著、キリスト新聞社	小 島 誠 志
わが神、わが神一受難と復活の説教	加藤常昭編、日本キリスト教団出版局	小 峯 明
落ちこんだら	A.M.コニアリス著、ヨベル	大 坂 太 郎
嵐と風と不思議なマント	三木メイ著、キリスト新聞社	西 原 廉 太

2018年3月号

巻頭エッセイ：神の前に立つ 丹治めぐみ		
日本プロテスタント教会史の一断面	落合建仁著、日本キリスト教団出版局	棚 村 重 行
現代新約注解全書 第二コリント書 8-9章	佐竹 明著、新教出版社	辻 建
イエスの譬え話2	山口里子著、新教出版社	水 島 祥 子
ローマ帝国のたそがれとアウグスティヌス	磯部 隆著、新教出版社	高 橋 優 子
こころの深呼吸	片柳弘史著、教文館	沢 知 恵
エレナイオス5 異端反駁V	大貫隆訳、教文館	鳥 巢 義 文
キリストは再び十字架にかけられる	ニコス・カザンザキス著、教文館	柳 田 富 美 子
改革派教会	オリヴィエ・ミエ著、一麦出版社	井 上 良 作
説教聴聞録	門叶国泰著、ヨベル	川 染 三 郎
聖書道しるべ	関田寛雄著、キリスト教図書出版社	木 下 宣 世
スピリチュアルケア研究	窪寺俊之著、聖学院大学出版会	西 平 直
新訳 聖潔のしおり	サムエル・ブレンゲル著、救世軍出版供給部	藤 本 満

2018年8月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：なぜ本を読むのか？ そこに本があるから 堀江知己		
エッセイ：「井上洋治著作選集」全10巻完結記念 山根道公、山本芳久		
キリスト教の再定義のために	荒井 猷著、新教出版社	細 田 あ や 子
歴史から世界へ	八谷俊久著、新教出版社	関 田 寛 雄
NTJ 新約聖書注解 ルカ福音書 1章-9章50節	嶺 重 淑 著	三 ッ 本 武 仁
[増補改訂版]キリスト者の世界観	A.M.ウォルターズ著、教文館	廣 瀬 薫
パウロの弁護人	G.タイセン著、教文館	浅 野 淳 博
微笑みをつないで	鶴飼栄子著、教文館	近 藤 勝 彦
たとえ語り尽くせなくても上・下	秋葉修孝著、一石書房	工 藤 信 夫
失望しないで	富岡愛美著、ヨベル	久 保 木 聡
無菌室のボーカル	地濃誠治著、ヨベル	檀 原 久 由
ジェームズ・バラの若き日の回想	ジェームズ・バラ著、キリスト新聞社	太 田 愛 人
田村直臣のキリスト教教育論	小見のぞみ著、教文館	今 井 誠 二

2018年7月号

巻頭エッセイ：本の力・魅力 菅田栄子		
教会と国家Ⅲ	カール・バルト著、新教出版社	宮 田 光 雄
Q文書	山田耕太著、教文館	嶺 重 淑
説教を知るキーワード	平野克己著、日本キリスト教団出版局	早 矢 仕 宗 伯
和解と交わりをめざして	片山はるひ他編著、日本キリスト教団出版局	塩 谷 直 也
地域福祉と教会	関西学院大学神学部編、キリスト新聞社	久 世 そ ら ち
悪と苦難の問題へのイエスの答え	本多峰子著、キリスト新聞社	郷 義 孝
ザ・ユウカリスト	E.スヒレベクス著、ヨベル	ヴ ェ イ ン セ ン テ ・ ア リ バ ス
変わらない主の真実に支えられて	黒木安信著、ヨベル	大 井 満
新約聖書と神の民 下巻	N.T.ライト著、新教出版社	浅 野 淳 博
教育的伝道	西谷幸介著、ヨベル	廣 瀬 薫

2018年6月号

巻頭エッセイ：北御門二郎とトルストイとの出会い 小宮 由		
特別企画：翻訳家 中村妙子さんインタビュー		
エッセイ：『人はどのように変わるのか』を翻訳して 田口美保子		
55歳からのキリスト教入門	小島誠志著、日本キリスト教団出版局	上 島 一 高
恵みによって生きる人間の形成	上野峻一他編著、日本キリスト教団出版局	長 山 道
地の塩となる教会をめざして	袴田康裕編、一麦出版社	星 出 卓 也
み言葉に生かされ	辻 哲子著、ヨベル	及 川 信
聖書の風景	岩井健作著、新教出版社	野 本 真 也
キリスト教教育と私 後篇	塩野和夫著、教文館	松 見 俊

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・17F	022-223-2736	共用		fqcwks24@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延館2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbdo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yohatare-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環読道字線777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2018年8月～9月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
永田圭介	あまつましみづ 一異能の改革者 永井英子の生涯	四六	280	2,500	教文館	8/10
大塚野百合	子どもの賛美歌ものがたり — イエスさまいるってほんとかな	四六	160	2,000	〃	8/25
R.カイザー著 前川裕訳	ヨハネ福音書入門 — その象徴と孤高の思想	B 6	344	3,900	〃	8/30
W.シュスラー編 芦名定道監訳	神についていかに語りうるか — プロティノスからヴィ トゲンシュタインまで	A 5 上	488	6,500	日本キリスト 教団出版局	8/24
左近豊	エレミヤ書を読もう — 悲嘆からのちへ	四六	136	1,400	〃	8/25
ヨアヒム・エレミアス著 南條俊二訳	イエスのたとえ話の再発見	四六	280	3,000	新教出版社	8/31
宮田光雄	ルターはヒトラー の先駆者だったか — 宗教改革論集	四六	280	2,750	〃	8/31
向谷地生良+浦 河べてるの家	新・安心して絶望できる人生 — 「当事者研究」という世界	四六 変		1,200	一麦出版社	8/3
廣瀬薫	よく生きる手がかり⑩ — 『羽野もと子著 作品集』「信仰篇」5	A 5	128	1,000	ヨベル	8/20
佐藤司郎、吉田新編	福音とは何か — 聖書の福音から福音主義へ	四六	460	3,600	教文館	9/10
キリスト教史学会編	マックス・ヴェーバー 「倫理」論文を読み解く	A 5	204	2,000	〃	9/10
稲垣久和編	神の国と世界の回復 — キリスト教の公共的使命	四六	250	1,800	〃	9/30
W.ブルックマン著 小友聡、宮善薫訳	平和とは何か — 聖書と教会のヴィジョン	四六	368	2,900	〃	9/30
八木重吉著・おち あいまちこ写真	うつくしいもの — 八木重吉信仰詩集	A 5 変	80	1,200	日本キリスト 教団出版局	9/25
ジョン・ディア著 志村真訳	剣を収めよ — 創造的非暴力と福音	四六		1,800	新教出版社	9/30
ヴァン・ダイク作 ／中井俊巳文 ／おむらまりこ絵	もうひとりのはかせ	A 4 変		1,400	〃	9/30
新井明	ミルトン研究 — 新井明選集1	A 5	435	5,000	リットン	9/5
鶴ヶ岡裕一	社会の苦痛と共に歩 む教会をめざして	A 5	64	926	キリスト新聞社	9/30
湊晶子	初代教会と現代	A 5	526	3,500	ヨベル	9/30
黒川知文	ユダヤ人の歴史と思想	四六	328	1,800	〃	9/30

福音と世界

2018年12月号

特集 カール・バルトと現代——没後50年に寄せて

寄稿者 宮田光雄 福嶋揚 阿久戸義愛

細見和之、猪刈由紀、絹川久子

WCC「女性と教会の連帯」20周年記念国際協

議会報告(片岡平和)／好評連載 福音の地下

水脈(石井光太)、聖書とわたし(工藤律子、わた

しはワグがわからない(山口政隆)、地のいと低きと

ころにホサナ(フレイティミカ)、野に咲く民衆の

神学(森宣雄)、現代神学の冒険(芦名貞道)ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

積読 Tsundoku

「『つんでおく』とドク(読)とをかけた洒落」書物を読まずに積んでおくこと(広辞苑第7版)

先日この「積読」という言葉が、世界共通用語になりつつあるというニュースを目にした。この言葉、遅くとも明治期には愛書家の間では使われていたそうで、英語には蔵書癖、書籍狂を指す「Bibliomania」以外、近い言葉がないようだ。コレクションを作る目的で本を集めるのが「Bibliomania」、読む時間が無く気づいたらコレクションを作ってしまったのが「Tsundoku」だとか。ある牧師が、「すぐには読まなくても、持っておかなくてはいけない本がある」という話をしていった。こうした牧師たちの積読文化にわれわれキリスト教出版業

界も支えられているのかもしれない。今後とも何卒……!

ちょうど今、積読状態になっている本の一つが、装丁家「桂川潤」さんの『装丁、あれこれ』(彩流社)だ。キリスト教書も数多く手がけてくださっているあの方の本。これは読まねばと買ったものの本棚に挿したまま……Oh! Tsundoku!!

装丁で思い出した。そろそろ発表していい頃だろうか。今年最後の十二月号を終えると、本誌『本のひろば』の表紙には、お色直し^レをしてもらう予定だ。装丁のリニューアルを皮切りに、レイアウトや連載なども刷新を考えている。デジタル化が進む社会にあっても、かわいがっていたただけるアナログ媒体へと育てていけるよう、編集も精進したい。

もしかすると現在のデザインを気に入ってくださっている方の中には、抵抗のある方もおられるかもしれないが、かわいかった子どもが、素敵な大人になっていくと思つて、これからもかわいがっていただきたい。くれぐれも『本のひろば』と分らず見逃してしまわないように。では、乞うご期待。(桑島)

本のひろば 2019年1月号 予告

本・批評と紹介…金斗鉉他作『聖書ものがたりノアの箱舟』、ヨアヒム・エレミアス著『イエスのたとえ話の再発見』、ジョン・ディア著『剣を収めよ』、兼子盾夫著『遠藤周作による象徴と隠喩と否定の道』、小笠原優著『キリスト教信仰のエッセンスを学ぶ』他

キリスト教全教派の
共有財産!

久松英二
古代ギリシア教父の霊性
東方キリスト教修道制と神秘思想の成立

ギリシア教父が模索した「神に向かう人間のあり方」はキリスト教霊性として結実し、修道制と神秘思想、神化思想を成立させた。全教派の共有財産であり、東方教会理解の鍵ともなるキリスト教霊性思想の起源と発展を探究し、その核心に迫る。

● A5判・320頁・本体3,800円



インターネットで発信され、多くの共感を集めた神父の言葉を厳選。仕事、家庭、人間関係に悩み、まいにち頑張るあなたへの言葉の贈り物。「大好評につき第8版出来!」

● 文庫判390頁・本体900円

こころの深呼吸

気づきと癒しの言葉366

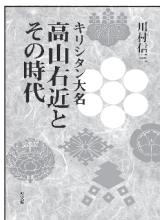


聖書を読んでみたいけど、全部はちょっと難しい。そんなあなたに神父が贈る毎日の聖句と黙想の言葉! 聖句に毎日親しめる二冊で、受洗者へのギフトとしてもおすすめ。

片柳弘史

聖書と共に歩む日々366
● 文庫判・390頁・本体900円

始まりのことば



信長や秀吉に重用されるも信仰ゆえに国外追放され、マラで客死した高山右近。その希有な生涯を「時代」と「地理」の視点から詳察し、新たな人物像の解明を試みる本格的評伝。● 四六判・272頁・本体2,700円

川村信三
キリシタン大名 高山右近とその時代

● A5判・320頁・本体5,900円



16世紀、神道・仏教・道教などの影響が混濁した当時の日本宗教とキリスト教の交差点で、日本人は何を教わり、どう信じ、実践したのか。「受け手」の視点からキリシタン史の再構築を試みる。

東馬場郁生
キリシタン研究第50輯 きりしたん受容史
教えと信仰と実践の諸相



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

